

道徳通信

～2号まで続きました～

T S U N A G I

主体的・対話的で深い学び～考え議論する道徳～

体験活動を基に、よりよい生き方を探る道徳

日付・学年 7月10日(水) 4年1組

内容

道徳通信、第2号です。(祝)検証授業が今回で終了し、今後の題材に悩んでいます。先生方の授業をこっそり見に行って書こうとも思ったのですが空きコマがほとんどなく、授業をお互いに見合うことも難しい現状です…題材のリクエストがあればお知らせください。今回は、山内先生に授業を見せていただきました。写真から分かるように教師も子どもも「笑顔」。「道徳の授業を楽しむとはこのことだ」と、納得した授業でした。かく言う自分は、どうだろう?授業参観の写真を確認してみると…全く笑っていませんでした。(汗)山内先生のような余裕が欲しいです。以下、授業の様子や授業づくり部会で指導主事の先生にご指導いただいたことをまとめました。ご一読ください。

今回の学び

教材と自分たちの経験の往還 ～山内先生の悩みぬいた中心発問から～

今回、授業を見せて下さった先生

山内 泰子 先生

【こんな工夫がありました👉】

- ・中心発問が生きる教材範読後の補助発問
- ・子どもたちの経験を引き出すコーディネート
- ・45分で終わる見通しを持ったタイムマネジメント



【振り返り 3つの視点👁️】

- ①今までは…
- ②今日、学習して…
- ③これからは…

授業づくり部

【山内先生の検証授業の裏側：「中心発問」・「思考ツール」の悩み…】

授業づくり部会&事前研で山内先生が悩まれていたのは「中心発問」でした。今回、様々な可能性を模索した結果、「海士町と津奈木町は、どれくらい似ているか。」という中心発問で心情スケールによる2つの町を比較する形を選択されました。子どもたちの様子、発言を見ながら気付いたことがいくつかありました。

【教材(海士町)と自分(津奈木町)を関連付けて考えることが促され、ねらいに迫れた!】

事実① スケールの場所を付ける時に「う～ん」と悩む多くの子ども

⇒「自然が豊か」「特産品」など、様々な視点で2つの町を比較したからこそ、悩んでいたのではないのでしょうか。様々な視点で考えられる問いになっていたのでは、と想像しました。

事実② 全体対話で子どもたちが語っていた体験活動

⇒子どもたちの発言に耳を澄ますと「海士町にもあって、津奈木にもある。」「海士町にはないけど、津奈木にはある。」など、教材文に出てきた海士町を想起しながら津奈木町の「あるもの探し」をしていました。彫刻の歴史や海渡りて見た弁天島の綺麗な景色など、これまでの体験活動が子どもたちから多く出てきました。

【山内先生の工夫】 ~子どもたちが2つの町を行き来しながら話せたのはなぜ?~

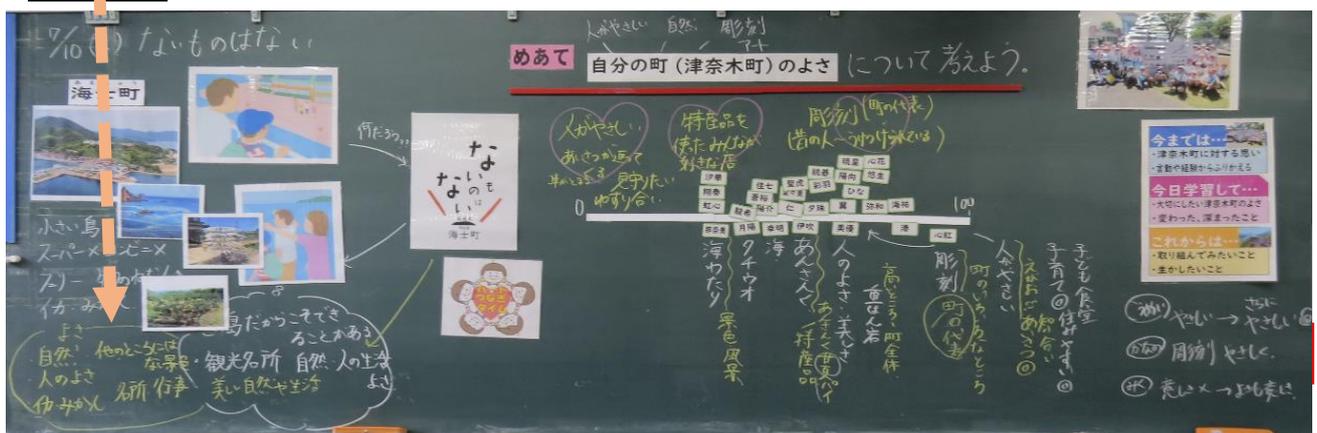
① 範読後の補助発問～中心発問が生きる補助発問～

全体対話で子どもたちが話していた海士町に関する発言は、補助発問で山内先生がキーワードとして板書されていたものでした。とても参考になる発問構成でした。

② 子どもの経験を引き出すコーディネート ~終わり切るタイムマネジメント~

切り返しの発問で「え?どんなこと?」「詳しく教えて」など、具体的な情報を引き出すコーディネートをされていました。また、振り返りの共有まで45分でピシヤリ終えるタイムマネジメント力。授業にアディショナルタイムはありません。山内先生の授業を見ながら猛省しました。

【板書】



今回の研修とは、関係ないけれど…

【「多面的・多角的」ってよく言われるけれど…】

～ 多面的って何だろう？ 多角的って何だろう？ ～

学習指導要領解説を見ても…「多面的・多角的」の明確な定義は書いていない

(3) 物事を多面的・多角的に考える

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのである。

道徳科においては、児童が道徳的価値の理解を基に物事を多面的・多角的に考えることができるようにすることが大切である。道徳的価値の理解は、道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解することが求められる。

このように、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるという道徳的価値の自覚を深める過程で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるのである。その中で、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることが大切である。

物事を多面的・多角的に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

なお、例えば、発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱うなど、物事を多面的・多角的に考えることができるよう指導上の工夫をすることも大切である。

指導要領解説 p16-17 道徳科の目標

「3物事を多面的・多角的に考える」より抜粋

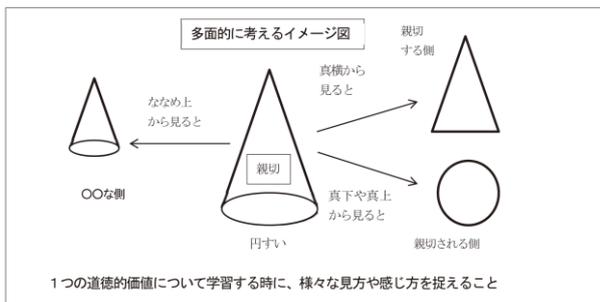
「多面的・多角的に考える」学習の方向性
キーワードは…

- ・児童が多様な感じ方や考え方に接すること
- ・多様な価値観の存在を前提に対話すること
- ・様々な視点から物事を理解すること

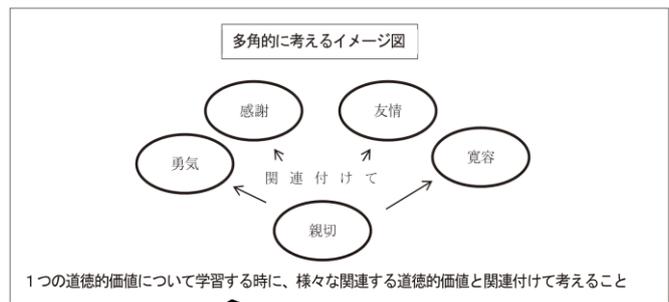
問い

- ①どうなれば、**多面的**に考えたってこと？
- ②どうなれば、**多角的**に考えたってこと？

多面的：1つの道徳的価値を様々な見方・感じ方で捉える



多角的：1つの道徳的価値に関連する様々な価値と関連付けて捉える



示した図は、あくまで1つの捉え方ですが、なるほど、と個人的に納得しました。少しでも「多面的・多角的」についての理解を助けられたら…と思い引用しました。

上越教育大学紀要論文2019 中島大介
「補助発問の工夫による道徳的価値の理解を深める実践～道徳的な価値を多面的・多角的に考えるための効果的な指導法の工夫～」より引用